

5 学習指導の展開例

展開例 1 小学校 低学年 学級活動 「危ない遊び」

展開例 2 小学校 低・中学年 防犯教室
「誘拐に備えて ~登下校での安全対策~」

展開例 3 小学校 中・高学年 防犯訓練
防犯（不審者対応）訓練実施計画の例

展開例 4 小学校 高学年 地域安全マップ
「安全・安心なまちづくり」地域安全マップを作ろう！

展開例 5 中学校 学級活動 「危険から身を守る」

展開例 6 高等学校等 ホームルーム活動
「地域社会の安全への貢献について考えよう！

小学校 低学年 学級活動

- 1 主題名 危ない遊び 「まっ、いっかー」そんな気持ちが事故のもと
- 2 本時のねらい
 - 安全な公園でも、危険がたくさんあることに気付くことができる。
 - 危険を予測し、安全に生活しようとする気持ちを持つことができる。
- 3 本時の展開例

	学 習 活 動	指導上の留意点 ()・評価 ()	資 料
はじめ	<p>1 危険な遊びをしているのはだあれ？</p> <p>安全な遊び場である公園の遊びの中にも、危険があることに気付く。</p> <p>資料イラストの危険な人をつける。</p>	<p>危険な遊びをしている人につけさせることで、安全な場所でも事故が起きることに気付かせる。</p> <p>危険を考え、危険な遊びをしている人を見つけることができたか。</p>	<p>公園で遊ぶイラスト。</p>
なか	<p>2 もし したらどうなるかな？</p> <p>毎日の遊びの中に潜む危険について考え、話し合う。</p> <p>「もし したら、××になるかもしれない。」を考え、隣の人とペアで起こるかもしれない危険を予測する。</p> <p>みんなの前で、2人で考えた危険予測を発表し、安全な遊び方について話し合う。</p> <p>(もし、知らない人が、「お菓子をあげるから、車にのらない？」といってきたら、どうする？)</p>	<p>「もし、ぶらんこで大きくこいたら、上にいる子が、手を放してしまっただけがをしてしまうかもしれない。」など、友だちと意見交換することで、様々な危険を予測させる。</p> <p>ペア学習で、いろいろな危険を予測し、言ったり、書いたりしているか。</p> <p>この事例は、学校の状況により取り入れるようにしたい。(各学校の被害状況調査の上、安全教育の一環として犯罪防止教育を扱う。)</p>	<p>いろいろな遊びの中で、危険を予測する場面を拡大して、示すと効果がある。</p> <p>イラストの中に声かけ事犯の場面を取り入れてもよい。</p> <p>誘いの事例は、教師が行う。</p>
まとめ	<p>3 今日は、何を発見したかな？</p> <p>学習を振り返り、これから安全に生活したり、遊んだりしていくために学んだことやがんばりたいことを発見・がんばりカードに記入する。</p> <p>記入したことを発表する。</p>	<p>学習を振り返ることで、安全な場所でも、様々な危険を予測したり、危険か安全かを判断したりできるようにする。</p> <p>発表後、教師の補足を入れてまとめる。</p> <p>ワークシートを読みとり、児童の気付きについて評価を行う。</p>	<p>発見・がんばりカードとしてのワークシートを工夫する。</p> <p>次時につなげるために、毎日の登下校のようすを資料として見せる。</p>



防犯教室 実施計画の例 「誘拐に備えて ~登下校での安全対策~」

- 1 ねらい 日常の安全指導と合わせて、毎日の登下校時における通学路等での安全について、児童自らが自分の生命を守ろうとする意識を向上する場とする。
- 2 日時 平成 年 月 日 () 9:30~10:15
- 3 場所 体育館
- 4 対象 1年生、2年生、3年生の児童()名 PTA会員(希望者のみ)
- 5 内容 神奈川県警察による防犯教室(誘拐に備えて)
- 6 日程 2校時(9:30 体育館へ移動)
 9:35 はじめのことば(学校安全担当者)
 校長先生の話
 県警のみなさんと本日の内容について紹介
 9:40 神奈川県警察による防犯教室(誘拐事件に備えて)
 <着ぐるみによる演技>
 子どもが被害者になりやすい犯罪
 被害にあう時の特徴(一人にいるとき、困っているとき)
 誘われやすい場所
 どのように誘うのか
 被害にあわないために
 10:10 おわりのことば
 PTA役員からの話(会長等)
 児童代表からお礼のことば
- 7 役割分担 司会 はじめのことば.....学校安全担当職員等
 案内 (講師等).....教頭
 受付PTA役員等
- 8 事後指導 各学級担任による指導内容については、P5を参照

防犯(不審者対応)訓練実施計画の例

1 日 時 平成 年 月 日 () 10:00~10:20

2 ねらい 不審者の侵入に対応して、教職員が児童の安全を守るため、互いに連携を図りながら沈着冷静かつ迅速に行動できるようにする。
児童の安全を守るため、安全保持の態勢を整えるとともに、児童自身が自分の身を守るため、落ち着いて素早く行動できるようにする。

3 想定 児童在校中に不審者が侵入し、技術特別室前で発見されたが、説得に応じず西階段を経て、校舎内(3階)まで乱入。

4 展開例 : 職員の対応 : 管理職等の対応 : 可能な設備であれば実施

時程		教職員の動き・対応	児童の動き	留意点
10:00	不審者侵入	不審者が技術員室前廊下を校舎内に向かって歩いていく。		
		<p>1 不審者(1名)発見(技術員室前) 発見者が声をかける。 「どちらにご用ですか」</p>	<p>・児童は各教室にて、通常の授業中</p>	<p>・職員室へ誘導できるよう丁寧に対応する</p>
		声かけに応じず、校舎内に侵入		
		<p>大声を出しながら、職員室に侵入の連絡をする。(防犯ベルを鳴らしながら移動)</p>		<p>・不審者の言葉や態度、持ち物等の把握を行い、凶器の所持について報告</p>
10:01 30秒以内の迅速な対応	不審者の移動・乱入	不審者が西階段を上がり、児童のいる教室に向かう。		
		<p>2 不審者と判断し、防御対策実施 対策本部設置</p> <p>非常サイレン(ベル)を鳴らし不審者侵入を報せ、緊急放送で、防御指示を出す。(教頭)</p> <p>110番通報をする。(校長)</p> <p>担任は、教室内外の児童を教室内に誘導し、施錠をする。</p> <p>放送者以外の職員やA職員は、教室施錠後、直ちに3階に駆けつけ、不審者対応にかかる。</p>	<p style="background-color: lightblue;">「訓練・訓練、1階廊下で異常発生。侵入者が西階段より3階へ向かいました。警備隊は大至急3階へ集結してください。 なお、教室には施錠してください。(繰り返し): 教頭</p> <p>・サイレン(ベル)と緊急放送を聞き、直ちに防災頭巾をかぶり、机の下にもぐる。</p>	<p>二次被害防止のため、施錠を優先に行う。</p> <p>・廊下等の教室外にいる児童を、大至急教室内に誘導する。</p> <p>・B職員は、隣室の施錠確認やパニックを起こした児童が廊下へ飛び出すことを制止する。</p>
				<p>A職員：不審者対応 B職員：児童管理対応</p>

時程		教職員の動き・対応	児童の動き	留意点
		<p>B職員は、学年前の廊下に防御用の机（長机）等を持ち、不審者の乱入阻止に備える。</p> <p>教室用の鍵は、各担任が責任を持って保管（当面は、教師用事務機の薄型大引き出しの左隅）</p>	<p>・放送または担任の指示があるまで、じっとしている。</p>	<p>・防御用の長机は、各教室の黒板入り口側に常時置いておく。（ヘルメットは、その上に置く。）</p> <p>・学年外の職員もA B担当を決めておく。</p> <p>・職員はヘルメットを着用する。</p>
<p>今回の不審者については、県警の職員に依頼したが、3階の廊下で警備隊と小競り合いをするように想定する。 不審者は、大声を出したり、凶器を持って廊下の掲示板を叩いたりして3年生～6年生の児童へ威嚇をし、臨場感を出してもらう。 警備隊も声を出して対応する。</p>				
10:03	不審者取り押さえ	<p style="background-color: #FFFF00; text-align: center;">不審者を3階トイレ方向に追いつめ、駆けつけた警察官により身柄を拘束され、引き渡す。</p> <p>A職員は防犯用具（さす又等）を持参し、協力して不審者を児童から離れた方向に追いつめる。</p> <p>校長（教頭）は、緊急放送で児童の冷静な行動をはかるよう指示を出す。 （出し続ける。）</p>	<p>・児童はサイレン（ベル）鳴動後も放送の指示を聞いて、その指示に従う。</p>	<p>・制御効果のある器具として、消化器の持参も考えられる。（今回は不使用）</p> <p>・A職員指揮者は、不審者逮捕を本部（職員室）に連絡する。</p>
10:05	安全確認・児童のケア	<p style="background-color: #FFFF00; text-align: center;">不審者引き渡し完了（安全確認）後、児童の心のケアを行う。</p> <p>校長は、不審者引き渡し確認後、児童に校内の安全確認を知らせ、体育館に全員を集合させる。</p> <p>校長は事件の概要説明と児童の心のケア（今回は、不審者対応に対する児童の心構えや緊急時の行動の仕方等）について、話をする。</p>	<p>・全校放送の指示に従い、担任の引率のもとに、体育館に入る。</p> <p>・校長の話を聞き、不審者対応に対する自分の行動について振り返り、心構えを持つ。</p>	<p>・教室で児童の確認後、整列させ体育館に引率する。（出席簿持参）</p> <p>・体育館で、各担任は人員報告を教頭に行う。</p>
10:20		訓練終了	<p>・順次教室へ戻る。</p>	

5 事前・事後指導

事前指導として学級担任は、児童に不審者侵入訓練があることを知らせ、緊急放送や担任（教職員）の指示に基づいて落ち着いて行動するように指導しておく。

学級担任は、非常サイレン（ベル）が鳴動した場合、直ちに防災頭巾をかぶり、机の下にもぐるよう指導しておく。（実際に、何回か練習する。）

なお、防災頭巾着用や机の下にもぐることについては、ガラスの飛散等や不審者を刺激させないため、また、安全教育の一環として避難行動と結びつけるための行動であるにとらえる。

事後指導は、発達段階に応じて、その都度状況に応じた行動をとる必要があることを理解させる。

6 訓練から考えられることや今後の課題

教室の内側からの施錠の必要性については、不審者の立てこもりの可能性も考え、十分検討が必要である。

防犯器具の配備

（例）

防御用長机を黒板の入口側に配置

防犯ベルの携帯または教室内設置場所の工夫

さす又（または、代用品としてプール清掃時の水切りモップ）

より実質的な対応策の確立とそれに必要な設備・器具等の配置計画及び設置場所の設定が必要となる。

児童を必要以上に怖がらせる事が目的ではない事に注意が必要。

- 1 単元名 「安全・安心なまちづくり」 地域安全マップを作ろう!
- 2 単元のねらい
 - (1) 体験学習により犯罪、事故などの安全上の課題を知り、注意力をたかめる。
 - (2) 地域探検や様々な発見を、友だちや地域の人たちとともに体験する中で、地域の魅力や課題を再発見する。
 - (3) 自分の考えや調べたことを発表したり、伝えたりする方法を考えることができるようにする。
- 3 指導計画及び評価の観点 (全 20 時間)

	学習内容	評価の観点
課題をつかむ (2時間)	<p>オリエンテーション</p> <p>作成のポイント 気になっている場所や危険を感じる場所を考え、出し合う</p> <p>入りやすい場所 + 見えにくい場所 = 危険な場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を知り、取り組もうとする意欲を持つ。
学習計画を立てる (6時間)	<p>調べたいことやその方法について話し合う。</p> <p>班編制・役割分担 (班長 1・記録 2・写真 1)</p> <p>家族への聞き取り調査</p> <p>情報の整理</p> <p>班の課題や見学順路</p> <p>・学校区を班の数分に分けて担当する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しを持って課題解決や探求のための方法を考えることができる。
課題を調べる (4時間)	<p>フィールドワーク ……作成のポイントをもとに</p> <p>記録用カードに記入 (見たこと・感じたこと・インタビュー等)</p> <p>写真撮影</p> <p>地図へ記入</p> <p>自治会、町内会等の地域の方々に協力してもらおう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの考えや感じ方を持つことができる。 ・友だちと協力して活動できる。 ・インタビューができる。
学習を深める (8時間)	<p>調べたことをまとめ、安全マップを作る。</p> <p>↓</p> <p>発表し合う</p> <p>↓</p> <p>発表をもとに安全・安心なまちづくりについて考え、自分たちにできることを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をまとめ、表現を工夫する。 ・多様な考えや感じ方を理解し、自分の考えに生かすことができる。

4 安全マップの作成（小学校での作成例）

児童生徒自身が登下校時の危険箇所の点検・確認をし、それをもとに安全マップを作成することにより、危険予測能力や危険回避能力を身に付けさせる。既存の安全マップがある場合は、見直しをする。

（１）オリエンテーション

登校班ごとに集合させ、一斉指導を行う。

作成方法と作成のポイントについて、理解させる。

書き込みができるように模造紙大の地図（まとめ用）を用意する。

よく行く場所や目印になる場所等は、予め書き入れておく。

点検・確認用の通学路の地図を配付し、取材するポイントや点検場所等を考えさせる。（地域の明細地図等を活用。）

作成のポイント

入りやすい場所 + 見えにくい場所 = 危険な場所

< 入りやすい場所 >

きちんと区切られていない。 境がはっきりしていない。

入るのにじゃまになる物がない。

近所の人たちが不審者等に注意をしていない。

近所のみんなで集まることが少ない。

【例】空き家、フェンス等がなかったり壊れていたりする公園、せまい路地、空き地 等

< 見えにくい場所 >

人がほとんどいない。 暗い。 見渡せない。

見るのにじゃまになる物がある。

【例】高くて長い塀が続く道、街灯が少なく暗い道、雑草や木が生い茂って見通しの悪い公園 等

（２）フィールドワーク

危険な箇所や気になる箇所をメモしたり、写真に撮ったりして記録する。

「子ども 110 番の家」等を訪ね、挨拶をし、互いの顔を知ることによって、いざというときに頼りやすくする。

地域の人に声をかけ、周辺の状況等について聞きとる。

交通事故等への配慮を十分にする。

集団登校時に教師や保護者の指導のもとで行うことも考える。

（３）安全マップの作成・発表

学級活動等の時間に、グループ別に作成の機会を設定させる。

点検・確認した内容をもとに安全マップへ書き込む。

写真やイラスト、地域の人からの情報等も書き込む。

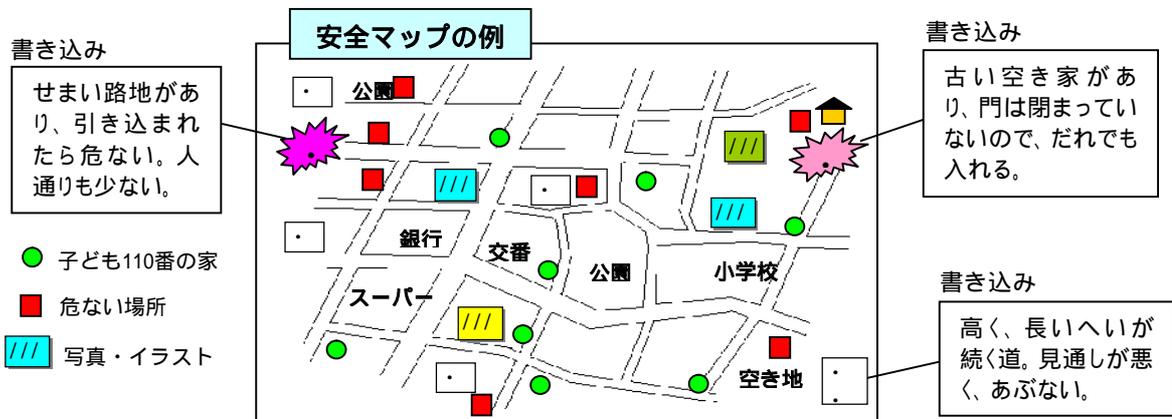
完成した安全マップの危険箇所、「子ども 110 番の家」や交番等を確認する。

児童一人ひとりが、自分自身の問題として実感を持って理解できるよう、発達の段階にあわせて指導する。

完成した安全マップをもとに、さらに理解が深められるように発表会を開くなど指導の工夫をする。

5 安全マップの見直し・改善

既存の安全マップについては、通学路の環境や状況の変化等に応じ、適宜見直し、改善することが大切である。



6 今後の課題

指導後の反省点を生かし、各自の生活に生かせるような支援を行う。

成果としての作品を、学習発表会等を開催し、保護者や地域の方々に報告する。

<安全マップ作りに期待できる効果>

被害防止能力の向上

犯罪が起こりやすい場所について理解できるようになり、より安全な道を選んだり、危険な道を歩かざるを得ないときにも、友だちと一緒に行動したり、注意力を高めたりすることができるようになる。

コミュニケーション能力の向上

話し合いながら作業を進めたり、大人から話を聞くことによりコミュニケーション能力が高まる。その結果、説得や交渉というコミュニケーションを通して、自分の欲求を満たすことができるようになる。

地域への愛着心の向上

地域を探検し、様々なことを発見することにより、地域への関心が高まる。また、インタビューを通して地域の人とふれあうと、地域には自分たちを守ってくれる大人が大勢いることに気付き、地域を愛する心も育つことになる。

非行防止能力の向上

対話を通して社会性が育ち、地域社会の安全に貢献する活動を通して市民性が育つ。その結果、良好な人間関係や社会生活の構築が可能となり、犯罪に走らないことができるようになる。

大人の防犯意識の向上

地域住民が子どもたちによる地域安全マップ作りを見かけたり、協力したりすることを通して、子どもたちを地域で守ると言う意識が高まっていく。その結果、地域ぐるみで犯罪者を子どもに近づけさせないまちづくりがすすむ。

1 題材名 「危険から身を守る」

2 本時の目標 危険を予測し、起こりうる犯罪から身を守る方法等を考えるとともに、犯罪に直面した場面を想定し、危険を回避する行動を実践することができる。

3 本時の展開例

	学 習 活 動	指導上の留意点	資 料
導 入	<p>1 本時の学習のねらいと内容を理解する。</p> <p>2 過去の学校侵入事件について県内の現状を知る。 近年の犯罪認知件数の推移 県内の声かけ事案や不審者等の現状</p>	<p>本時の内容について理解させ、真剣な態度で臨む意識を持たせる。</p> <p>報道された事件は、特別ではないことに気付かせる。</p> <p>自分の身近に犯罪が起こる可能性があることを理解させる。(未成年者被害資料など)</p>	<p>犯罪認知件数(警察庁HP)や新聞の切り抜き、自作資料を活用</p> <p>事件の概要については、生徒の心理的状況に配慮する必要がある。</p>
展 開	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; background-color: #ffffcc; padding: 5px;">危険に直面したとき、身を守るためにはどうしたらよいか考えよう。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; background-color: #ffccff; padding: 5px;">ケース1 不審者に声をかけられたら ケース2 学校内で第一発見者だったら</p> <p>3 先生の演技を見て考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>個人で危険を探し、個人カードに記入する。</p> <p>個人で探した危険を班で話し合い対策を考える。</p> <p>考えた対策を発表する。</p> </div> <p>4 ロールプレイングで実践する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>班で考えた対策をもとに、先生とのロールプレイングを行う。</p> <p>改善点を話し合う。</p> </div>	<p>危険を予測する力とその危険から回避する望ましい方法に気付くよう支援する。</p> <p>机間指導により、記入が進まない生徒に対し、適切な支援を行う。</p> <p>班で話し合った対策と助言内容を生かした危険回避の行動となっているかを確認しながら、進めていく。</p> <p>より実態にあった方法になるよう助言する。</p>	<p>ワークシート(個人・班 振り返りができる内容に工夫する。)</p> <p>個人カードと班カードを用意してもよい。</p>
ま と め	<p>5 本時を振り返る。</p> <p>学習したことを振り返り、危険な場面に直面したときどのように行動すればよいか確認する。</p>	<p>日頃の危機管理意識が大切であることに気付かせる。</p> <p>日頃の生活行動で、すきを見せない行動が大切であることも理解させる。</p> <p>個人カードへ“これからの行動”について、記入させる。</p>	<p>個人カード</p>

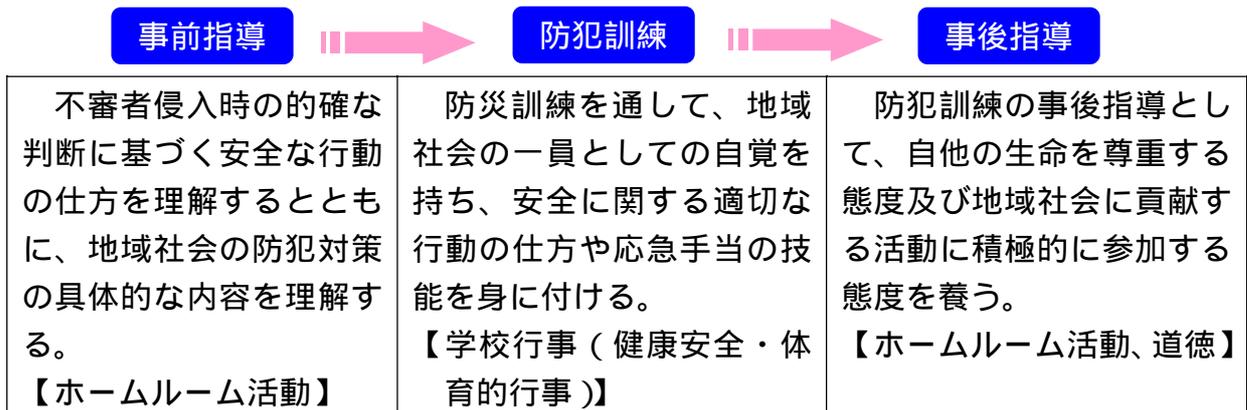
ロールプレイングの指導における留意点 (P25 参照)



1 題材名 「地域社会の安全への貢献について考えよう！」

2 本時の目標 自らの安全を確保する方法を理解し、いざというときに適切な行動を実践する力を身に付けるとともに、地域社会の安全にも貢献する大切さについて理解を深める。

3 学習の流れ



4 学習の展開例

学習形態等	学習活動	教師の支援・指導	備考
<p><展開1> グループ学習</p>	<p>犯罪の発生要因や被害を防ぐ方法を理解しよう。</p> <p>ケーススタディによって、一人ひとりが犯罪についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事の犯罪事例について、発生要因やその被害を防ぐ方法について、グループごとに意見を出し合う。 <p>生徒から出た意見を取り上げながら解説する。</p> <p>地域での犯罪意識について考えよう。</p> <p>グループディスカッションによって、地域貢献の大切さについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登下校時を中心に地域で発生する可能性のある犯罪のケース、その要因、対策について、グループで意見を出し合い、発表する。 <p>ディスカッションが活性化し、できる限り多くのケースを想定させるために、ブレインストーミングなどの手法を取り入れる。</p> <p>ブレインストーミングの約束を徹底し、意見が出やすい環境をつくる。</p>		<p>* 新聞記事の犯罪事例は、身近に起こりえる事例を取り上げるようにするが、プライバシーには十分に配慮する。</p> <p>事件の概要については、生徒の心理的状况に配慮する必要がある。</p> <p>ブレインストーミングの約束</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 批判をしない。 奔放なアイデアを歓迎する。 質より量を重視する。 他のアイデアを修正、改善、発展、結合する。 </div>

<p>< 展開 2 > グループワーク</p>	<p>地域の人と協力して防犯マップを作ろう。</p> <p>これまで学習したことを活用した防犯マップづくりを通して、地域の防犯活動に主体的に関わる。 <マップ作りの手順></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 危険な場所のチェック </div> <p>グループ内で地域の地図を見ながら、危険と思われる場所を事前にチェックしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 班編制と役割分担 </div> <p>班編制とメンバー一人ひとりの役割分担、各班の調査地区を決定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> フィールドワーク </div> <p>事前にチェックした場所の確認、「入りやすく、見えにくい場所」の発見、地域の人へのインタビュー、写真撮影などを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> マップの書き込み </div> <p>調査したことをまとめ、構想を練って防犯マップを書き込んでいく。 (写真の貼付、コメントやイラストの挿入などわかりやすくするための工夫)</p> <p>防犯マップの手順を示し、作成のポイントやフィールドワークでの約束作りなど特に対外的なことについて、十分に指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 地域の警察、防犯指導員、自治会や町内会等と事前に調整し、フィールドワークにおける協力体制を構築する。 * 教員の役割分担など学校の体制整備を進め、企画がスムーズに運営できるようにする。 * 写真撮影時には、肖像権について事前に指導しておく。 * 防犯マップは地域に広く発信するため、簡潔でわかりやすく書くよう指導する。
<p>< 展開 3 > 生徒会活動等</p>	<p>地域防犯を小学校や中学校などへ発信しよう。</p> <p>近隣の小、中学校へ作成した防犯マップの配付や防犯訓練や文化祭などでの発表機会を設けるなど、地域全体に広く発信することによって防犯意識を高める。</p> <p>小、中、高等学校連携の一つとして、継続性のある安全教育について計画 実践 評価のサイクルを確立させる。</p> <p>地域社会への貢献の意識を強化するとともに、積極的に地域活動に参加するように働きかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 計画段階で、各校の学校安全担当教員同士の共通理解を図るとともに、学校全体で動ける体制作りを行う。 * 地域への発信も含め、校内で発表の場を作るなど「広げる、深める」ための工夫をする。

展開 1 ~ 3 は、1 単位時間の授業展開としての取り扱いではなく、生徒の状況に応じた段階として学習できるように示してあります。